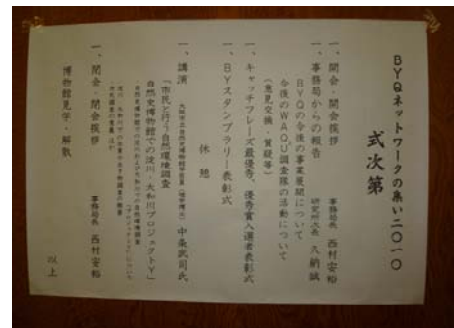


「BYQネットワークの集い2010」を開催しました。

平成22年2月6日(土)、大阪市立自然史博物館1階講堂において午後1時から下記のプログラムで開催しました。WAQU²調査隊やBYスタンプラリー協賛団体の方々など、約90名の参加がありました。



BYQ ネットワークの集い2010 プログラム

時 間	内 容
13:00~13:05	開会 あいさつ 事務局長 西村 安裕
13:05~13:40	事務局からの報告 研究所次長 久納 誠 <ul style="list-style-type: none"> ・BYQの今後の事業展開について ・今後のWAQU²調査隊の活動について (質疑・意見交換等)
13:40~13:55	キャッチフレーズ最優秀、優秀賞入選者表彰式 BYスタンプラリー表彰式
13:55~14:05	休憩
14:05~14:55	【講演】 講演者：自然史博物館学芸員（理学博士） 中条 武司 氏 「市民と行う自然環境調査：自然史博物館での淀川・大和川プロジェクトY」 <ul style="list-style-type: none"> ・自然史博物館での淀川および大和川での自然環境調査「プロジェクトY」について ・淀川・大和川での水質や生き物調査の概要 ・市民調査の意義 ほか
14:55~15:00	閉会・閉会あいさつ 事務局長 西村 安裕

○開会挨拶 西村事務局長

○BYQ事務局からの報告

久納研究所次長から「BYQの今後の事業展開について」と題して、BYQ発足から15年を経て琵琶湖・淀川流域の水質の課題が変わってきたことから、平成22年度からのBYQの事業展開も変えていくことを説明した。

自主研究は、「遊び泳げる河川」を目指しての課題を中心に進めることや、かわら版の発行の効率化を図ること、河川愛護助成は一時中断することについても説明を行いました。

続いて「今後のWAQU²調査隊の活動について」説明し、まず、従来のパケット5項目のうち亜硝酸態窒素を取りやめ、4項目（COD、アンモニア態窒素、硝酸態窒素、リン酸態リン）とし、にごりと臭いの調査を追加することを説明しました。また、目視による調査項目として、川原の状態、川底の状態や水深などの項目を追加することを説明しました。

これらの説明に対し、会場から「追加された項目は理解できるが、統一された基準が必要ではないか」、「同じ河川でも少し場所が異なると大きく状況が異なるのではないか」、「においも必要ではないか」、「泡が出ているところは、水質はどうなのか」、「調査場所には川原がないが、どう調査するのか」、などの質問が出されました。

○キャッチフレーズ表彰式

最優秀作品「飲める水 遊べる水辺 次世代に」の和歌山県和歌山市 福岡亜紀さんをはじめ、優秀作品の大阪府豊中市 泉伸司さん、兵庫県尼崎市 牧野千春さんが出席され、西村事務局長から賞状および副賞の授与を行いました。



西村事務局長の開会挨拶



BYQ事務局からの報告



WAQU²調査隊 質疑風景



キャッチフレーズ入選者のみなさん

○BYスタンプラリー表彰式

今年度BYスタンプラリーの全てのチャレンジ（初級、中級、上級、チャレンジ4～7）を達成された方々に、西村事務局長から賞状および副賞の授与を行いました。今回表彰されたご家族は、今年度2回、全てのチャレンジを達成されています。



BYスタンプラリー表彰者のみなさん

○講演：大阪市立自然史博物館 中条学芸員

「市民と行う自然環境調査：自然史博物館での淀川・大和川プロジェクトY」についてご講演をいただいた。博物館の展示紹介、大和川プロジェクトYでは、生物の生息分布や水質、特に人間活動と塩化物イオンの関係、淀川プロジェクトYを今年8月に報告することなど貴重なお話をいただきました。



講演者 中条 武司 氏



講演風景